

社說

入れて自から春雨するなり自から上風と思ふ
すが、千葉の安否は如何、然るに若子は甚入

又引上奏案

長だ繕れなるに相違なし故に此場合には開闢は専らそのこととなるなりと答ふ夫より柴原

外資輸入の道

入れて自らも看守するなり自から工風と風を
すみに千家の業者と云ふ所が然るに若くも甚大
民が昇等工風に意を用ひるのみ隣村の富
民を擇りて不動産の所有は勿論、人に手取
常に此のふとをも兼じながら自村の庄田地
其利用を以て隣村より金を出でしハシモシ
たらば庄屋たるものは軽て之も承知し得き
も否も我輩をして庄屋ならしめは一ももな
く村民等の不心得を叱責して其説承諾せ給
可いのみの商業家娘が收穫に頗難く外債を
起らしめて自家の資本の超過を得どするが
如きに取引も直す貴村の人見が庄屋の負
て當初の金を償らしめたるの難處に外な
らず我輩の断じて反對する所より
第も資本を得り新聞圖が組の富國の企圖を
して事業の興盛を謀るは世界の國は皆も之
らざる中に某國の如き最も著しくなる
可し便に獨立興業機会と見れば本來獨
立を謀る前半七八十年漸く其結果と收め近半
に至り始めて借金一沓済を見たる程の次第す
も之云ふ左に日本に於ても事業興達する事
に外資は依頼す可は勿論なるに實際には然
れども其輸入の道を察さむから之を聞くく方法
難せず過まく其事を言ふも之れは政府の
借用に依頼して目的を達せんとするに過ぎず
と云ふ斯る有様にては前途の見込みがだ疊重
も外國人は實古からもしきは人望なりなど
おふるのもあらじて其實に實利に實益あり
れなれども何故は大體なるを例へば日本銀行
の債務が極く外人の手に歸したうとて之を
大體なりと云はんには政府の公債は國債す可
るのみ今日本の人氣は寧ろ之を希望すとみて
まことに國の公債既に歸すとすれば國に日本
銀行の債務に歸するの御内訌ある可らず左
の如きに於ける事の如きは外人の所持と
外債輸入の如き見る可し丁の為は何見る
事かにするは勿論 土地所有權の問題の如き
も宜しく禁止すべきものなり斯くて大に國政
として外債の如きは國に實益に外債と謂ふ
點に於ける事の如きは外債と謂ふ事の如き
に似る事の如きは外債と謂ふ事の如き
に似る事の如きは外債と謂ふ事の如き